

【地方創生】

(2) 仕事をつくり、仕事を呼ぶ

■ 現状と課題

- ・近年の大分県における人口移動を見ると、県外への転出が転入を大幅に上回っており、2014年は2,648人の転出超過となっています。その多くは15歳～24歳の若年層で占められており、転出先は、福岡県26.2%、東京都11.6%など都市部に集中しています。
- ・このような人口流出をくい止めるために大事なことは、県内各地で魅力ある仕事づくりを進め、仕事人が人を呼び、人が仕事を呼び込む好循環を創出していくことです。
- ・農林水産業では、耕地面積の多くが中山間地域に位置し、1戸当たりの経営規模が小さいことに加え、高齢化や就業者数の減少が進んでいます。今後は、農林水産業の更なる構造改革や農商工連携を進める中で、儲かる農林水産業を実現していくとともに、新規就農者等、新たな担い手の確保、育成を図っていくことが重要となります。
- ・商工業では、県内企業数の99.9%、雇用数においても8割以上を占める中小企業の仕事づくりが重要です。企業誘致をはじめ、自動車・半導体・医療機器などの産業集積といったこれまでの取り組みを深化させていくとともに、創業支援や魅力あるサービス産業の創出、クリエイティブ産業など、新たな分野への支援を充実させていくことが課題となっています。
- ・観光産業では、「おんせん県おおいた」の取り組み等によりブランド力の向上が図られ、県内宿泊者数は増加しています。また、東九州自動車道の開通、県立美術館の開館、JRデスティネーションキャンペーン等、本県の観光振興に絶好の機会が訪れています。この機を逃さず、県内各地の観光資源に磨きをかけ、国内外からの誘客を促進するとともに、観光産業の成長産業化による仕事づくりを図っていく必要があります。

■ これからの基本方向

- ・地域密着の産業である農林水産業や商工業、観光・ツーリズムなど、様々な分野に魅力ある仕事場を創出します。

■ 主な取り組み

分野別政策のうち、関係する次の政策・施策に横断的に取り組みます。

① 変化に対応し挑戦と努力が報われる農林水産業の実現

- ・ 構造改革の更なる加速
- ・ マーケットインの商品^{もの}づくりの加速
- ・ 経営マインドを持った力強い担い手の確保・育成

② 多様な仕事を創出する産業の振興と人材の確保

- ・ 多様で厚みのある産業集積の推進
- ・ 未来に向けた戦略的・効果的な企業立地の推進
- ・ チャレンジする中小企業と創業の支援
- ・ 商業の活性化とサービス産業の革新
- ・ 急速に進化する情報通信技術の普及・活用
- ・ 産業人材の確保・育成とワーク・ライフ・バランスの推進
- ・ クリエイティブ産業への挑戦

② 人を呼び込み地域が輝くツーリズムの推進

- ・ 海外誘客（インバウンド）と国内誘客の推進
- ・ おんせん県おおいたの地域磨きと観光産業の振興

■ 目標指標

指標名	基準値 (H26年度)	目標値	
		H31年度	H36年度
魅力ある仕事づくりによる新たな雇用創出数	—	4,300人 (累計)	9,700人 (累計)